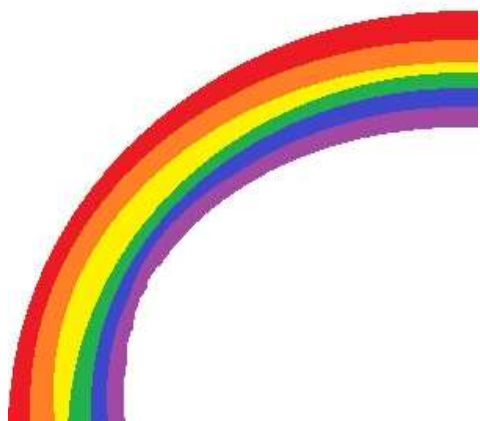




未来の地球のため
私たちができること

環境経営 レポート 2024

対象期間 2023 年 1 月～2023 年 12 月

学校法人 郡山開成学園



CONTENTS

I.	郡山開成学園環境方針	
	環境理念、環境方針	1
II.	郡山開成学園の概要	
	II-1 法人名及び組織	2
	II-2 所在地	2
	II-3 環境管理責任者及び事務局	2
	II-4 学園規模	2
	II-5 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要	3
III.	郡山開成学園における環境マネジメント	
	III-1 環境パフォーマンスとその関連要素	4
	III-2 環境への取組分野	4
	III-3 環境への負荷とその関連要素	4
	III-4 環境マネジメントシステム	5
IV.	環境目標及び環境活動計画	
	IV-1 2021年～2023年中長期環境目標	6
	IV-2 2021年環境活動計画	7
V.	環境活動結果	
	V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況	
	(1) 環境負荷の対前年詳細比較	8
	(2) 環境目標の達成状況評価	9
	(3) 取組結果の評価	9
	(4) 代表者による評価と見直し	9
	V-2 トピック	10
	V-3 各部門の取組み	10～16
	V-4 緊急事態対応	16
	V-5 郡山開成学園地域連携活動	17～18
VI.	次年度の取組み	18
VII.	環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果	19
VIII.	環境活動結果に関する内部監査及び評価	
	(1) 内部監査	20
	(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	21
	(3) 外部評価	21

I. 郡山開成学園環境方針

学校法人郡山開成学園 理事会承認

2002 年 9 月 12 日制定

2017 年 7 月 28 日最終改定

環境理念

学校法人 郡山開成学園は、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と持続的に発展可能な循環型社会の構築に寄与するため、全学挙げて環境保全活動に積極的に取り組む。

環境方針



1. エコマインドを持った学生・生徒の育成並びに関連教育研究の推進

環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生・生徒の育成が急務であることから、人々の福祉 及び地球環境保全に貢献できる人材を育成し、また、これらに関わる教育研究活動を行う。

エコマインドを持った学生、生徒を育てます。

環境意識向上 2023 年目標 「社会の中で率先して環境問題に取り組む人づくり」を目指す。
各部門において、環境マインドを高める為の取組みを推進していく。

2. 教育研究活動における環境負荷の削減

教育研究活動にともなう環境負荷を低減する目標に向かって、全学を挙げて、省エネルギー、省資源、 廃棄物の抑制と再資源化などに積極的に取り組む。

CO₂ 排出量を削減し地球温暖化にブレーキをかけます。

CO₂ 排出量 2023 年目標
1%以上削減 年間 11 t の CO₂ 排出量削減を達成します。

ゴミを減らすのではなくゴミを出しません。

ゴミ排出量 2023 年目標
1%以上削減 年間 1.0 t の一般廃棄物削減を達成します。

水や紙を大切に使う心を育てます。

水使用量 2023 年目標
1%以上削減 年間プールの一杯分の水使用量削減を達成します。

紙使用量
1%以上削減 年間コピー用紙 110kg の紙使用量削減を達成します。

3. 法規制の遵守

環境関連の法規制を遵守すると共に、環境汚染の予防を図り、自然環境の保全、再生に協力する。

4. 環境関連情報の公開とコミュニケーションの推進

環境理念、環境方針、環境目標、環境活動計画及びその実績等の環境関連文書やホームページ等を通じて、 学内の学生、生徒、教職員や一般社会へ積極的に公開する。

5. 地域貢献

環境分野に関するボランティア活動（本学主催のどんぐりプロジェクト及び、郡山市主催のごみゼロキャンペーンへの参加、空間放射線量や食品中に含まれる放射性物質の測定、包括連携協定を締結した市町村等との連携活動、並びに学園施設の一般開放等）を通じ、地域に貢献する。

Ⅱ. 郡山開成学園の概要

Ⅱ-1 法人名及び組織

法人名：学校法人 郡山開成学園

代表者：理事長 関 口 修

■ 組織

郡山女子大学 : 学長 関口 修
郡山女子大学短期大学部 : 学長 関口 修
郡山女子大学附属高等学校 : 校長 関口 修
郡山女子大学附属幼稚園 : 園長 賀門 康博

Ⅱ-2 所在地

〒963-8503 福島県郡山市開成三丁目 25 番 2 号

Ⅱ-3 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者 / 郡山女子大学 家政学部 食物栄養学科
准教授 影山 志保（環境委員会委員長）
TEL 024-932-4848（内線 233）
Fax 024-933-6748
Kage-shi@koriyama-kgc.ac.jp

環境委員会事務局 / 郡山開成学園 法人事務局 管財部
課長補佐 安齋 文明（環境委員会事務局）
TEL 024-933-1955（直通）
Fax 024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

Ⅱ-4 学園規模

学生数（大学・短大）	809 人
学生数（附属高校）	294 人
園児数（附属幼稚園）	150 人
教 職 員 数	180 人
敷 地 面 積	190,569 m ² （57,647 坪）
延 べ 床 面 積	50,835 m ² （15,377 坪）

（令和 6 年 5 月 1 日現在）

II-5 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要

区分	学科・専攻等	取得できる免許・資格									
大学 大学院	人間生活学研究科 新しい時代には、新しい学問が要求されます。 「人間守護」の理念を中心に、人間生活について総合的かつ専門的に学びます。	●中学校及び高等学校専修免許状（家庭）									
大学 家政学部	生活科学科 ■社会福祉専攻 社会福祉と介護について専門的かつ総合的に学ぶことにより、地域における福祉分野の課題解決に取り組み、地域の活性化に寄与する福祉の専門的人材を育成します。	●社会福祉士（受験資格） ●介護福祉士（受験資格） ●高等学校教諭一種免許状（家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭） ●特別支援学校教諭一種免許状									
	■建築デザイン専攻 少人数制を活かして体験や体感を重視した実践的な教育と一人ひとりの個性に合わせた教育を展開し、地域社会で活躍する女性建築士を育成します。	●一級及び二級建築士（受験資格） ●福祉住環境コーディネーター ●商業施設士 ●高等学校教諭一種免許状（工業・家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭） ●特別支援学校教諭一種免許状									
	食物栄養学科 食品の安全性と健康維持をはかる管理栄養士を養成。 社会や食生活の多様化・国際化に対応できる総合的な指導者を目指します。	●管理栄養士（国家試験受験資格） ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者と食品衛生監視員（任用資格）									
短期大学部	健康栄養学科 健康で豊かな食生活をすすめる「栄養士」と、食品業界にかかわる「フードスペシャリスト」を養成。人々の健康をサポートする食と栄養の知識と技術を身につけます。	●栄養士免許 ●管理栄養士国家試験受験資格（実務経験3年） ●フードスペシャリスト受験資格 ●専門フードスペシャリスト受験資格									
	幼児教育学科 ■幼児教育コース 幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することができます。多彩なフィールドワークを通して実践力を養い、子どもに寄り添える保育者を目指します。	●幼稚園教諭二種免許状 ●保育士資格									
	■チャイルド・ミュージックコース 音楽に関する専門的な知識や技術を学び、より豊かな音楽表現力を養い音楽の美しさや楽しさを伝えることができる保育者を目指します。	●幼稚園教諭二種免許状 または ●保育士資格									
	地域創成学科 地域連携教育を中心とした多様な学びにより想像力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に役立つ力を身につけます。	●文化・歴史系：司書、学芸員補（任用資格） ●アート＆デザイン系：色彩士検定、Illustrator、Photoshop、Webクリエイター ●ビジネス・情報系：情報処理士、ITパスポート、MOS検定、日商PC、ICTプロフィシエンス検定、社会福祉主事（任用資格）									
	専攻科 文化学専攻 人間の生きた証である歴史の知識を体系化、深化させるとともに豊かな人間性を培い、総合的な判断力を養います。	●学士（文学）（大学改革支援・学位授与機構） ●学芸員（任用資格）									
	専攻科 幼児教育学専攻 幼児教育・保育に関する高度な専門知識を身につけ、保育現場をリードしていく役割を担う人材を養成します。	●学士（教育学）（大学改革支援・学位授与機構） ●幼稚園教諭一種免許状									
附属高等学校	普通科 個々の特性に合わせて、全教科にわたって幅広く学習します。1年次は、共通カリキュラムで学習し、基礎学力の充実を図ります。2年次からは、自分の進路や適性に合わせて、1型（文系）、2型（理系）に分かれて学習します。										
	音楽科 一般教科目を精選し、専門課程を強化しながら、各専攻（ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽）に分けて、音楽の才能教育を行う県内唯一の学科です。										
	美術科 絵画、工芸、デザイン等の専門知識を深め、美に対する感覚と技術の向上を目指す県内唯一の学科です。										
	食物科 栄養、食品、食品衛生等の専門知識や高度な調理技術、技能を身につけ、食文化の継承者として地域社会に貢献する調理師を育てます。	●調理師免許									
附属幼稚園	<table border="1"> <tr> <td>年長組 (5歳児)</td><td>やなぎ組 まつ組</td><td rowspan="4"> ●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おと・うごき・ことば教室、英語教室、体育教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。 </td></tr> <tr> <td>年中組 (4歳児)</td><td>さくら組 つつじ組</td></tr> <tr> <td>年少組 (3歳児)</td><td>たんぽぽ組 すみれ組</td></tr> <tr> <td>2～満3歳児</td><td>つくし組</td></tr> </table>	年長組 (5歳児)	やなぎ組 まつ組	●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おと・うごき・ことば教室、英語教室、体育教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。	年中組 (4歳児)	さくら組 つつじ組	年少組 (3歳児)	たんぽぽ組 すみれ組	2～満3歳児	つくし組	
年長組 (5歳児)	やなぎ組 まつ組	●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おと・うごき・ことば教室、英語教室、体育教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。									
年中組 (4歳児)	さくら組 つつじ組										
年少組 (3歳児)	たんぽぽ組 すみれ組										
2～満3歳児	つくし組										

Ⅲ. 郡山開成学園における環境マネジメント

3-1 環境パフォーマンスとその関連要素



Ⅲ-2 環境への取組分野

大項目	中項目
1. 事業活動へのインプットに関する項目	1) 省エネルギー 2) 省資源 3) 水の効率的利用及び日常的な節水 4) 化学物質使用量の抑制及び管理
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止 2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理 3) 排水処理 4) その他生活環境に係る保全の取組等
3. 製品及びサービスに関する項目	1) グリーン購入 2) サービスにおける環境配慮
4. その他	1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組 2) 環境コミュニケーション及び地域貢献 3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体に当たりの環境配慮

Ⅲ-3 環境への負荷とその関連要素

環境への負荷	もとなる活動・設備
二酸化炭素排出	購入電力 空調、照明、OA機器、教育研究機器
化石燃料	灯油 暖房 (体育館)
A重油	ピークカット発電
都市ガス	空調、厨房
LPガス	空調、風呂
ガソリン	学園車両等
軽油	園児送迎車両等
廃棄物排出	白上質紙 教育、研究
一般廃棄物	新聞紙 図書館等
段ボール	納入品包装
その他の紙	シュレッダー、雑誌
缶	自動販売機
ペットボトル	自動販売機
生ゴミ	学生食堂、調理実習、祭給食
汚泥	グリストラップ
産業廃棄物	金属くず 廃自転車
廃食用油	調理実習
廃油	実験実習
特別産廃	実験実習
廃酸、廃アルカリ	実験実習
水使用	トイレ、手洗い、飲料
化学物質	実験、実習
物質使用 (コピー用紙)	教育研究

Ⅲ-4 環境マネジメントシステム

■エコアクション21 認証・登録



■エコアクション21 とは

エコアクション21 認証・登録制度は、広範囲な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション21 ガイドラインに基づく、事業者ののための認証・登録制度である。

本学園は2004年12月24日教育機関では全国初となるエコアクション21 認証・登録を受け2022年12月16日に9回目の更新審査を完了した。



■実施体制



■役割

最高環境責任者 (理事長・学長)	- 環境方針を定め、教職員に周知する。 - 環境方針を毎年1月に見直し、必要があれば改訂する。 - EA21 を効率的に実施するために環境委員会、環境委員長、副委員長、及び環境委員の任命を行い実施体制を構築し、役割と責任を定め、全教職員に周知する。 - 毎年3月に実施体制を見直し、必要に応じて変更を行う。 - 代表者は毎年1月に前年度のEA21 の取組状況を評価し、全体的な見直しを行い、修正が必要な場合には環境委員会委員長に指示を行う。(年1回)
内部監査委員	- 毎年11月に環境経営システムがEA21 ガイドライン要求事項に合致しているか検証する。 - その環境経営システムに有効性があるか、また、環境経営システムに定められている活動内容が環境方針、環境目標の達成に適切なものとなっているか検証する。
環境委員会 (委員長、副委員長、委員)	- 環境方針、環境への負荷及び環境への取組状況のチェック結果を基に環境目標を策定し、達成のための活動を行う。 - 毎年1月に前年度の達成状況を把握・評価し、必要により見直しを行う。 - 毎年1月に環境目標を達成させるための単年度ごとの環境活動計画を作成し、実行する。 3ヵ月ごとに実施状況と実績を把握し、評価する。 - 実施状況に問題がある場合は是正処置を行い、次年度の計画策定に反映させる。
環境委員会事務局 (管財部)	- 毎年1月に前年度の事業活動に伴う環境負荷を調査し、「環境への負荷の自己チェック表」を完成させ、見直しをする。 - 毎年1月にチェック表による法令等の遵守状況を確認する。 - EA21 を適切に実行するためにEA21 の意識と概要の教育及び、必要な場合は訓練を実施する。 - 毎年環境経営レポートを作成し、理事長、学長の確認を得て公表する。 - EA21 の実施に必要な文章を作成し、保管する。 - EA21 の取組に係る記録等を作成する。 - 作成された記録を集め、整理し、保管する。
学生サポーター (ケチャルライフスタイル部以下NLS部 (郡山女子大学エコレンジャー))	- NLS 部員は環境委員会サポーターとして環境活動に協力する。 - 郡山女子大学エコレンジャーはeco 検定受験対策講座のサポーターとして環境委員会に協力する。

■認証・登録証



Ⅳ. 環境目標及び環境活動計画

V-1 2024 年～2026 年中長期環境目標

本学園は、以下 7 つの項目に対し、目標値を掲げて環境活動に取り組む

項 目		単位又は区分	基準年実績	2024 年目標値	2025 年目標値	2026 年目標値
			2023 年 1 月～12 月	2024 年 1 月～12 月	2025 年 1 月～12 月	2026 年 1 月～12 月
エコマインド を持った学 生、 生徒の育成	森林自己学習 活動参加人数		38 名	40 名	42 名	44 名
	福島ふれあいの 森活動参加人数		12 名	14 名	16 名	18 名
	うつくしま COOL サポーター		7 名	8 名	9 名	10 名
	環境系サークル 活動支援	NLS 部・ガーデニング同好会	16 名	18 名	20 名	22 名
二 酸 化 炭 素 の 排 出 量 の 削 減	電 気	kWh	1,190,012	1,178,111 (-1.0%)	1,166,211 (-2.0%)	1,154,311 (-3.0%)
	都市 ガス	m ³	51,185	50,673 (-1.0%)	50,161 (-2.0%)	49,649 (-3.0%)
	LP ガス	m ³	93,461	92,526 (-1.0%)	91,591 (-2.0%)	90,657 (-3.0%)
	CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂	861,417	852,802 (-1.0%)	844,188 (-2.0%)	835,574 (-3.0%)
水使用量		m ³	26,058	25,797 (-1.0%)	25,536 (-2.0%)	25,276 (-3.0%)
紙使用量		Kg	9,378	9,284 (-1.0%)	9,190 (-2.0%)	9,097 (-3.0%)
化学物質の 適正管理		—	化学物質の 適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理
グリーン 調達の推進		取扱消耗品 (280 品目) のグリーン 適合品	271 品目 (96.8%)	271 品目 (96.8%)	271 品目 (96.8%)	271 品目 (96.8%)

(電気事業者名：NTT ファシリティーズ 1 月～4 月、調整後排出係数 0.405kg-CO₂/kWh

須賀川瓦斯 5 月～12 月、調整後排出係数 0.431 kg-CO₂/kWh

東北電力 体育館、外灯、駐車場、調整後排出係数 0.496 kg-CO₂/kWh) 2023 年

IV-2 2023 年環境活動計画

方針	目 標	目標達成手段	責任部門	スケジュール												
			実施部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
エコマイ 学生、生徒の育成	各部門において、環境マインドを高めるための取組を推進していく 《重点目標》 1. 森林自己学習活動の参加人数 2. 福島ふれあいの森活動の参加人数 3. NLS 部／ガーデニング同好会／整備部の確保 4. うつくしま GOOL サポーターの認定者数	各環境委員による積極的なリーダーシップのもと実施	環境委員長 各環境委員				開始	→					開始	→		
排出 二酸化炭素削減	電力の削減 電力量－11,837kWh 2022 年度基準比 削減率－1.0％ 都市ガス、LP ガスの削減 都市ガス－472 m ³ LP ガス－911 m ³ 2022 年度基準比 削減率－1.0％	・ 節電対策 ・ BEMS による見える化 ・ 不要照明の消灯 ・ 待機電力の削減 ・ クールビズ運動 ・ ウォームビズ運動	環境委員会 事務局 管財部	説明 導入 実施 実施	運用	→						開始	→		開始	→
排出 廃棄物削減	一般廃棄物の削減 一般廃棄物量－1,058kg 2022 年度基準比 削減率－1.0％	・ 廃棄物削減目標説明 ・ 学内 LAN の有効利用（文書の電子化、E-mail） ・ 裏白使用、両面印刷 ・ 分別の徹底による再資源化量増加	環境委員会 事務局 管財部	説明 実施 実施 実施	→											
節 水	水の削減 水使用量－240 m ³ 2022 年度基準比 削減率－1.0％	・ 水削減目標説明 ・ 節水トイレの増設 ・ 無駄水削減の徹底 ・ 漏水の早期発見	環境委員会 事務局 管財部	説明 実施 実施 実施	→											
削減 紙使用量	紙使用量の削減 紙使用量－95kg 2022 年度基準比 削減率－1.0％	・ 学内 LAN の有効利用（文書の電子化、E-mail） ・ 裏白使用、両面印刷	環境委員会 事務局 管財部	実施 実施	→											
購入 グリーン	消耗品 271 品目をグリーン購入法適合品に変更する	・ 消耗品のグリーン購入 ・ 家電、OA 機器等はエネルギー効率の高い機器を購入	管財部				○									
管理 化学薬品	爆発物の原料となり得る化学物質、PRTR 対象物質、毒物・劇物の保管管理を適正に行う	・ 年 1 回それぞれ該当する保有薬品の調査を行う。	環境委員会 事務局									○				
活動 年間計画	○環境教育 ○緊急事態対応訓練 ○環境関連法規等の遵守評価 ○代表者による評価と見直し ○環境経営レポート	環境目標、活動計画の周知 安全防災訓練 法令順守 第三者評価、環境監査 作成と地域事務局へ提出		遵守	→											
・ 環境管理責任者は 3 ヶ月毎に確認し、取組に問題がある場合には指示を行う。																
・ 代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。																

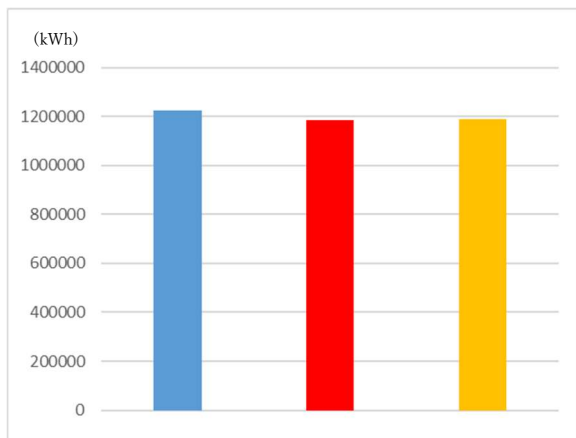
V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況

(1) 環境負荷の対基準年詳細比較

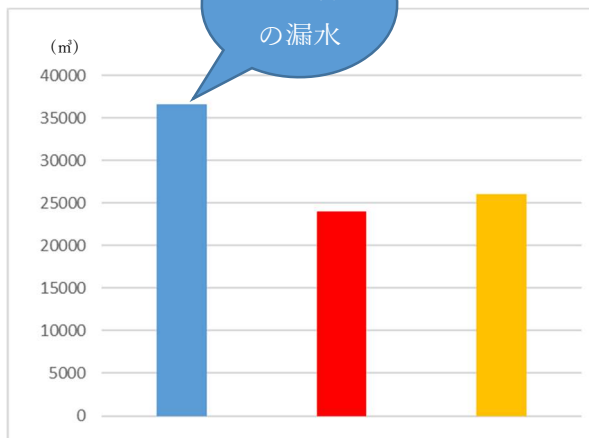
■ 2021 年 ■ 2022 年 ■ 2023 年

■ 電気使用量



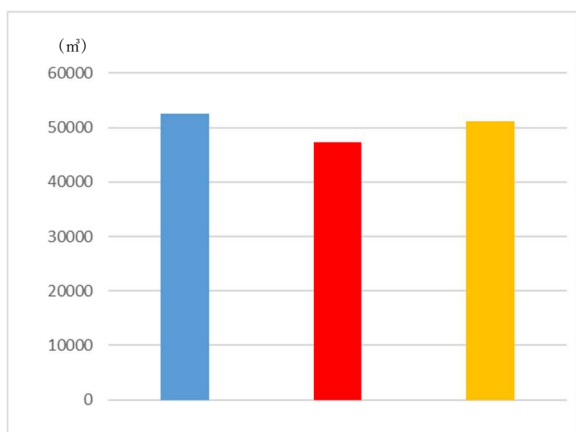
昨年よりも若干（0.5%）増加した。

■ 水使用量



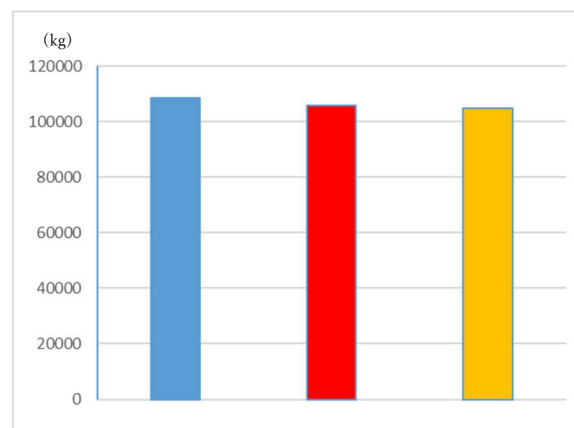
昨年よりも 8.6% 増加した。

■ 都市ガス使用量



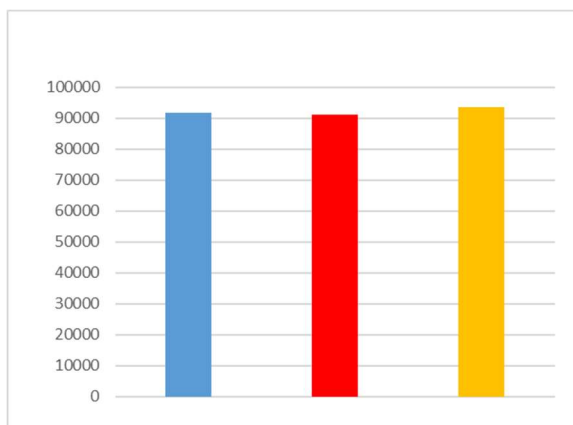
昨年よりも 8.4% 増加した。

■ 一般廃棄物処理量



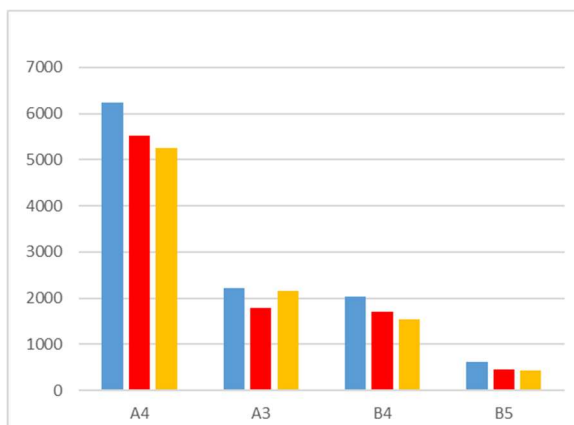
昨年より 0.95% 減少（目標達成まであと少し！）

■ L P ガス



昨年よりも 2.5% 増加した。

■ 紙使用量



昨年よりも 1.2% 減少（-1.0% の目標達成！）

(2) 環境目標の達成状況評価

2023 年における環境目標の達成状況は、下表の通り。エコマインドを持った学生、生徒の育成については、福島ふれあいの森の活動を 10 月に開催したが、各種環境イベント等と重なり、集まりが悪かった。環境負荷の削減に係る環境目標については、コロナウイルスが第 5 類に移行したこともあり、行事等の復活に伴い、電気・ガス使用料が増加した。尚、化学物質の適正管理、グリーン調達の推進は環境目標を達成した。

表：環境目標及びその達成状況（期間 2023 年 1 月～ 12 月）

項 目		単位又は区分	基準年実績	2023 年目標 (-1.0%)	2023 年実績	達成状況 達 成 ○ 未達成 × 中 止 -
			2022 年 1 月～12 月	2023 年 1 月～12 月	2023 年 1 月～12 月	
エコマインドを持った 学生生徒の育成		森林自己学習 活動参加者	44 名	45 名	38 名	×
		福島ふれあいの森 活動参加者	32 名	33 名	12 名	×
		うつくしま COOL サポーター	7 名	7 名	7 名	○
CO ₂	電力使用量	kWh	1,183,776	1,171,938	1,190,012	×
排出量	都市ガス	m ³	47,215	46,742	51,185	×
削減	LPガス	m ³	91,162	90,250	93,461	×
水 使 用 量		m ³	23,987	23,747	26,058	×
紙 使 用 量		kg	9,493	9,398	9,378	○
一 般 廃 棄 物		kg	105,860	104,801	104,850	×
化学物質の適正管理		—	年 1 回の保管管理調査	年 1 回の保管管理調査	年 1 回の保管管理調査	○
グリーン調達の推進		—	グリーン適合品 271 品目	グリーン適合品 271 品目	グリーン適合品 271 品目	○

(3) 取組結果の評価

1. エコマインドを持った学生、生徒の育成

- ①森林自己学習活動参加者は、38 名であった。自然観測会に参加する子供の数が減ってしまった。
- ②福島ふれあいの森活動参加者は、12 名であった。次回は、広く参加を呼び掛けたい。
- ③うつくしま COOL サポーター養成講座を実施し、7 名が認定。昨年と同数。

2. 電気・ガス使用量の削減

電気・ガス使用量に係る環境目標を、基準年の 1.0%減としたが、コロナウイルスが第 5 類に移行したこともあり、行事が増えたことにより、電気 0.5%増、都市ガス 8.4%増、LP ガス 2.5%増であった。

3. 水使用量の削減

水使用量に係る環境目標を、基準年実績 23,987 m³の 1.0%減の 23,747 m³以下とした。実績は、26,058 m³で 8.6 %の増となり環境目標を達成できなかった。外部貸出数が増え、トイレ利用者数の増加が考えられる。

4. 紙使用量の削減

紙使用量に係る環境目標を、基準年実績 9,493kg の 1.0%減の 9,398kg 以下とした。実績は、9,378kg で 1.2%の減少となり環境目標を達成することができた。

5. 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量に係る環境目標を、基準年実績 105,860kg の 1.0%減の 104,801kg 以下とした。実績は、104,850kg で基準年比、-0.9%の微減となり環境目標を僅かに達成できなかった。

6. 化学物質の適正管理

化学物質に係る環境目標を、毒物・劇物、向精神薬、核原料物質、病原性微生物、PRTR 対象物質、危険物等化学物質の保管状況を各関係法に則り厳格に管理している。

実績は、化学物質取扱者と円滑なコミュニケーションを取りながら各関係法に則り厳格に管理する事ができ環境目標を達成できた。これは管財部及び環境委員会において関係教員の協力を得て厳格に法令遵守を行ったからである。

7. グリーン調達の推進

グリーン調達に係る環境目標を、購買部取扱い消耗品類 280 品目中 271 品目（96.7%）をグリーン購入適合品にすることとした。実績は、271 品目（96.7%）がグリーン購入適合品となり、環境目標を達成した。

(4) 代表者による評価と見直し

エコアクション 21 認証登録後 19 年が経過し、学外企業や NPO 団体との繋がりが出てきている点は評価できるが、毎年各環境委員により様々な環境保全活動を実施している点を学内にもっと周知する様指示があった。

V-2 トピック

■ 学園第1～3体育館 LED 化

消費電力の高い水銀灯照明を LED 化し、電気使用量の削減を図った。

■ 図書館高架水槽タンクステンコート（7 カ年計画の 7 年目）

FRP（繊維強化プラスチック）製の貯水槽をタンクステン（塗装）する事により貯水槽の長寿命化を図った。



V-3 各部門の取組み

■ 郡山女子大学

●生活科学科 環境負荷の低減に向けた取組みについて ーもみじ会ー

【社会福祉専攻】テーマ：その人らしく 100 年生きていく

ひとりひとりが生きやすい社会を目指し、互いに配慮できるよう、高齢者や障がい者の特性に関心を持ってもらうにはどうすれば良いかを考察し、楽しく理解を深められるような展示や体験コーナーを設けた。



【建築デザイン専攻】テーマ：人と地域を繋ぐまちづくり-福島県の資源を活かして-

地域の活性化と持続可能な地域社会の実現のために、福島県の森林資源を活かした「体験型複合施設」の構想として、地域における人々の交流拠点や移住者の受け入れを目指した人と地域を繋ぐまちづくりを提案した。



【教職課程】テーマ：未来を紡ぐために私たちにできること

家政学を学ぶ学生として衣生活と教育に着目し、SDGs の観点から豊かな生活を送るために、私たちにできることは何かを考えた。現状と課題を把握し、持続可能な生活の実現に向けて実践できる取り組みを提案した。



●西会津地域におけるウチダザリガニの生体内の重金属の測定 食物栄養学科 影山 志保

裏磐梯・猪苗代湖における特定外来生物ウチダザリガニの調査からウチダザリガニの分布や増殖場所が明らかにしてきたが、令和5年4月から環境省による特定外来生物防除等対策事業で防除に関する特別交付税措置として財政支援が始まり、裏磐梯・猪苗代湖でもウチダザリガニの大規模駆除が行われ、一時的に裏磐梯・猪苗代湖における特定外来生物ウチダザリガニが減少した。このことから今年度は、ウチダザリガニの増殖を制御するためにウチダザリガニがどのような環境を好んで生息しているかを調べる事を目的とし、西会津におけるウチダザリガニの生体内の重金属を分析し報告。



ウチダザリガニは2023年9月に西会津の県営萩野漕艇場（福島県喜多方市高郷町上郷中割丁315-3）および上野尻（福島県耶麻郡西会津町上野尻瀬頭2987）でカニカゴを用い捕獲した。捕獲したウチダザリガニは冷却しながら研究室に持ち帰った。持ち帰ったウチダザリガニは外骨格、尻尾、鰓、肝臓、内臓、消化管、精巣および筋肉の8部位に分け、金属総量（銅、亜鉛、マンガン、ニッケル、カドミウム）を分析した。

県営萩野漕艇場および上野尻では各地点でオスメス2匹ずつウチダザリガニを捕獲した。県営萩野漕艇場で捕獲したオスのウチダザリガニの金属総量は精巣で50mg/L、肝臓で10mg/L、それ以外の部位では非検出であった。また、メスでは肝臓が50mg/L、鰓および尻尾で2mg/L、それ以外の部位では検出されなかった。オスとメスの両方で金属が検出された部位は肝臓であった。次に、上野尻で捕獲したオスのウチダザリガニの金属総量は、内臓で10mg/L、肝臓で2mg/Lで、それ以外の部位では非検出であった。また、メスでは肝臓が5mg/L、内臓が2mg/Lで、それ以外の部位では検出されなかった。オスとメスの両方で金属が検出された部位は内臓および肝臓であった。

今回の分析したウチダザリガニは合計4匹であったが、すべてのウチダザリガニで肝臓と内臓で金属総量が高い傾向にあった。ウチダザリガニとヒトの人体の構造は異なっているが、肝臓の機能はほぼ同じである。肝臓は栄養素の代謝、有害物質の解毒、栄養素の貯蔵、栄養素の分泌の4つの役割があり、ウチダザリガニでもヒトでも肝臓は栄養素など、さまざまな物質を化学的に変化させたり、体内に入った毒物を解毒分解する事から、金属は肝臓に蓄積しやすく、金属総量が高い数値を示したと考えられた。金属によってはカドミウムのように中腸線に蓄積しやすいという事がすでに知られている金属もあり、亜鉛などはウチダザリガニの中にもともと豊富に含んでいる。しかし、今回の分析では金属総量での測定値であり金属個別の数値はわからなかったが、肝臓や内臓に重金属が多く含まれているという事が明らかになった。貯水池と汚染された場所で生息するザリガニと魚類臓器の重金属を調査した文献によると、ザリガニの肝臓は金属の大部分が蓄積する部分であり、今回捕獲したウチダザリガニの金属総量の分析結果と似た傾向を示していた。また、魚とザリガニでは高濃度で濃縮する金属が異なり、魚では水銀、ザリガニでは銅が高濃度で生体内に蓄積されやすいとされている。

今回金属総量として測定した金属は遷移金属や重金属である事から、水に溶けにくく土壤に吸着しており、簡単には土壤から水へ移動する事はない。また、水環境に生息する生物は土壤から水に溶出した金属を餌として取り込み吸収している事から、水から金属が検出されなくても土壤に吸着し高濃度で存在している事が考えられる。このことから、ウチダザリガニの防除には水だけでなく、土壤（＝餌）も併せて考えていく必要がある事がわかった。

■ 郡山女子大学短期大学部

●健康栄養学科

健康栄養学科では、資源を無駄にしない取り組みについて授業の中で実践的に学び、学生自身が環境について身近に考えている。

① 屋上菜園活動

例年、農業体験の一環として、62年館の屋上を使用し屋上菜園活動を行っている。収穫できた野菜は調理実習や学生食堂で使用されたり、学友会の「フードドライブ」の一環として学生へ提供されたりしている。

このような農作業体験を通して、農家の方の大変さやフードロスへの理解を深めている。

*JA 福島さくらや教員の指導の元、定植している様子



* 屋上菜園で収穫できた野菜

* フードドライブの様子



② 生ごみの減量

調理実習などで食材を使用する際に、廃棄量を出来るだけ最小限にし、無駄なく使用する工夫をしている。

* 古紙で作ったごみ入れと受け皿で水切りをし、生ごみの軽量化を図っている様子。



③廃油の再利用

調理実習等で出た油は、そのまま流しに捨てず、容器に入れ、今年度は、地域創成学科の齊藤弘久先生に手渡し、藍を使用した石鹼作りを行っている。



④減るしいレシコンクールへの応募

「食品ロス」をなくそうということで、3R フェスティバル 2023 実行委員会が主催している「減るしいレシコンクール」への応募を推奨し、今年度も学生から多数の応募があった。



*** 多数の応募があった中、学生1名が見事優秀賞を受賞した。**

*** 優秀賞に輝いた
『美味しい和風ハンバーグ・生姜と野菜の皮のエコふりかけ』**



●幼児教育学科

幼児教育学科では、学校行事やボランティア活動、同好会を通して環境活動を積極的に行っている。

① 障害者スポーツ

幼児教育学科の2年生は、授業の中で様々な障害者スポーツについて学んでいる。もみじ会では「ポッチャ」を幼児向けの遊びとして取り入れ、来場されたお子さんを初め、保護者や一般の様々な方に体験していただいた。



② ゴミゼロキャンペーンへの参加

4年ぶりに郡山市主催の「ニコニコ子ども館まつり 2023」に参加。授業中で学びを深めている、スケッチブックシアターや絵本の読み聞かせ、劇や歌などに「3R」の内容を楽しく織り交ぜながら披露した。



② ガーデニング同好会

令和5年度は、「自然保育」のメンバーが中心となって「ガーデニング同好会」として活動を進めた。とても丁寧に花壇の手入れを行うことが出来た。



●地域創生学科

① 廃油を使用した石鹼作り

齊藤先生の卒業研究では、健康栄養学科が調理実習等で使用した廃油で、石鹼をつくる取り組みを行っている。石鹼に「藍」を入れてみたり、香料を追加したりと現在模索中で、今後卒業研究の一環として取り入れていくとのこと。



② つなぐデザインプロジェクト

・地域創成学科2年生の授業「地域創成プロジェクト演習」のゼミの一つである「つなぐデザインプロジェクト」では、「双葉町「環境再生」デザインプロジェクト」に取り組んでおり、デザインのアプローチによる地域社会の課題発見・課題解決を目標に活動している。



・この活動は、環境省、双葉町、株式会社フレックスジャパン(本社 長野県、2023年に双葉町に事業所設置)と連携して、2021年～2023年現在まで行っている。
・双葉町で20歳を迎えられる方々へ小学校に残されていた体育館の紅白幕や教室のカーテン等の双葉町に残された布材を学生がアップサイクルし、思い出の記念品として贈呈する予定である。



＊昨年度は、表示の写真の通り「パッチワークの双葉だるま」と「カードケース」を贈呈。



■ 郡山女子大学附属幼稚園

附属幼稚園では、「面白さを感じない普通の園庭」を、やみくもに遊具を設置することで面白くするのではなく“面白さ”を“ワクワクする気持ち”と置き換えて園庭の活動を見直していくことを目標に自然環境と向き合う取り組みを行った。

○ワクワク園庭プロジェクト

① 園内研修 １）「作ってみたい園庭」の意見を出し合う ２）保育者が自然に親しむ（石筵開成の杜（R5, 3, 25））

②保育者が環境として準備

○子どもたちの興味につながる仕掛けを作る



・大学生が製作

・音のなるものをつくる

・不思議なサークル

・丸太で作った椅子で遊んでみよう

③子どもと一緒に作り上げる



・何かできないかな？「キャンプファイヤーつくろう」・キャンプのテントづくり/・森の中にテーブルつくっちゃおう！



・メダカのおうちをつくろう！花壇もつくろう

・たきぎをつくろう

④雑草・落ち葉はできるだけそのままに

○草地や落ち葉の残る空間を少しずつ確保する。

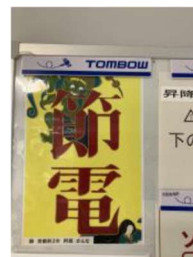


・自然物の中で、子どもたちはいろいろな遊びを生み出す。

今後も、子どもと一緒に園庭の環境を作りながら生物の多様性に気づくことにつなげていきたいと思う。

■ 郡山女子大学附属高等学校

- ①環境活動 花壇の整備、草むしり、落ち葉拾いなどを実施し、校舎内・外 の環境整備を行った。
- ②節水・節電・・・ポスターによる啓発や LED 照明 の導入



- ② リサイクル活動・・・紙、空き缶、ペットボトル
- ④食育活動・・・農業体験、各種コンクールへの参加のリサイクル、エコキャップ活動



■ 家庭寮

- 家庭寮の取り組み 2023
下記項目について寮生・職員共に
協力し取り組んでいます。

■ 寮生数

寮生数	1号館	2号館	合計
大学生	9	7	16
短大生	10	15	25
高校生	—	33	33
合計	19	55	74

節電・節水の呼びかけ

- ・ 掲示等による
- 必要時以外こまめに消す
- 水道を出したままにしない（1号館）



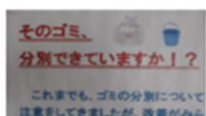
「エコキャップ収集運動」への参加

今年度で14年目となる
一年間で約14000個収集



ゴミの分別

- ・ 分別の呼びかけ
- 掲示等による
- ※分別出来ないゴミは提示し注意



古紙回収

- ・ 回収ボックスを設置し分類・回収



環境対策

- ・ 寮内美化（毎日の清掃・大掃除の実施）
- ・ 屋内消毒、排水溝の清掃（業者実施）
- ・ 玄関前プランター植栽



安全管理

- ・ 地震発生を想定した避難訓練実施
- ・ 空間線量測定、食品検査の実施
- ・ 災害時対応備蓄（食品・飲料水）
- ・ 防災についてのプリント配布
- ・ 避難経路、非常口の確認会を実施

コロナウイルス感染症対策

- ・ 食事時の食堂内入室制限
- ・ 入浴時の入浴者数の制限
- ・ 消毒液の配布・設置
- ・ 健康観察（体温測定）の実施



避難訓練の様子

SDG s & エコアンケート	1 位	2 位	3 位	4 位
「SDG s」を 知っていますか？	よく知っている (内容も知っている)	なんとなく知っている (内容は詳しく知らない)	聞いたことがある	知らない
実際に行っている エコ活動は？	エコバッグ 	ゴミの分別 	エコキャップ 	節電 
寮でもっと 取り組みたいエコは？	エコキャップ 	フードロス 	節電 	寮内バザー 

■ 郡山女子大学ナチュラルライフスタイル（NLS）部・環境委員会の環境保全活動等



● 生物多様性への貢献

福島県森林自己学習支援事業（福島県森林環境税活用事業）

昨年度に引き続き、5年連続で実施した。

○活動テーマ「こおりやま開成の杜復活プロジェクト」

○活動内容 環境調査（放射線、動植物、野鳥、きのこ）、林業体験（間伐作業、除伐作業）
自然観察会の実施（小道散策、除伐体験、間伐材を利用したコースター作り）



● プロジェクトD（どんぐりプロジェクト）福島ふれあいの森

東日本大震災以降、津波で流失した森林面積と被災地の心の復興を取り戻すことを目的に、日本環境協会が主体となり実施してきた活動を2021年度より、郡山女子大学が引継ぎ、福島ふれあいの森で活動を実施した。NPO法人小野自然倶楽部の協力を得て、教職員、学生、リコージャパン福島支社の皆様とどんぐりの裾枝払いを実施した。



■開成の杜について

開成の杜	植樹年月日	樹種	本数	年数
鞍手山	平成 8 年 5 月	ヒノキ	5,100 本	29 年
高土山	平成 13 年 6 月	スギ	4,300 本	24 年
石 筵	平成 15 年 5 月	ヒノキ	7,000 本	22 年
安子ヶ島	平成 20 年 5 月	ヒノキ	5,000 本	17 年

■各種環境関連イベントへ出展（REIF ふくしま 2023、ゼロカーボン DAY、カーボンニュートラルエキスポ）

令和 5 年 10 月に REIF ふくしま 2023、ゼロカーボン DAY、カーボンニュートラルエキスポ in こおりやまへ出展した。郡山女子大学における環境活動の展示発表やナチュラルライフスタイル部の紹介、福島県森林自己学習支援事業の間伐体験で発生した木材を利用したコースター製作体験コーナーの開設等を行った。



REIF ふくしま 2023



ゼロカーボン DAY 内堀知事視察



カーボンニュートラルエキスポ in こおりやま



根本衆議院議員視察



V-4 緊急事態対応

■身の安全確保訓練（福島県沖地震が発生し、震度 5 強の大地震が 10 秒後に到着する想定）

緊急地震速報の校内アナウンスに従い、身の安全確保（シェイクアウト）訓練を実施した。



■避難訓練

キャンパス内に指定した 4 カ所へ分散避難を実施。車椅子の学生も一緒に避難した。



V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動



■ 本宮市との包括連携協定締結

本宮市との包括連携協定締結

平成 28(2016) 年 11 月 3 日に本宮市と人材育成や人材確保、幼児教育や文化、芸術、健康福祉の増進など 5 項目について包括連携協定を締結し、高齢者福祉、幼児教育分野を中心に継続的な活動を行っている。

■ 葛尾村との包括連携協定締結

平成 28(2016) 年 12 月 6 日に葛尾村と震災からの復興に関する包括連携協定を締結し、六次化商品の開発を継続的に進めるとともに、村内行事へ積極的に参加してきたが、令和 2(2020) 年度以降はコロナ禍で村内行事が制限される状況が続いており、活動を限定しながら実施している。

■ 福島さくら農業協同組合との包括連携協定締結

平成 28(2016) 年度に J A 福島さくらと農業の振興や教育及び人材育成に食文化の振興、健康、福祉の振興など 5 項目について包括連携協定を締結し、相互に緊密に連携し、双方の資源を有効に活用した協働による活動を推進している。屋上菜園の栽培指導に毎年ご協力頂いている。

■ 小野町との包括連携協定締結

平成 29(2017) 年 8 月 21 日に小野町と子育て、人材育成、健康栄養及び福祉の増進など 6 項目について包括連携協定を締結し、子育ての分野にて継続して協力が行われている。

■ 古殿町との包括連携協定締結

平成 30(2018) 年 8 月 27 日に古殿町と地域創成、健康栄養・福祉の増進、子育て環境の向上、地域産業の振興、芸能・文化の向上、人材育成・確保の 6 項目について包括連携協定を締結した。農産物の六次化商品開発が進められている。

■ 郡山市との事業連携

平成 21 年 3 月 13 日に本学は、郡山市こども総合支援センター「ニコニコ子ども館」実施事業の連携協定を締結し、学生が「ニコニコ子ども館まつり」、ハンドベル演奏等のボランティア活動を 4 年振り実施した。昨年度までは、コロナウィルスの影響で実施できなかった。

■ 福島民報社との事業提携

平成 29(2017) 年 2 月に福島民報社と連携協力協定を締結し、新聞等を活用したキャリア教育の支援、地域課題等に関する共同調査及び研究、人材交流及びインターンシップの実施、教育研究のための新聞記事情報の活用支援等の分野において連携協力を進めている。

■ 鏡石町との連携

令和 2(2020) 年 2 月 12 日に鏡石町と食と健康の分野に関する連携協定を締結した。令和 2(2020) 年度からは、町内の高齢者を対象とした食事と栄養に関する調査が実施され、令和 3(2021) 年度からは調査をもとに健康教室が開催されている。



いきいき交流事業

本宮市民元いきいき応援
プラザ(えぽか)にて



エゴマ定植作業

エゴマ刈り取り作業



62 年館 屋上菜園の栽培指導



おのまわかばたんけんた
いの素敵な冒険 活動風景

住民ワークショップ



古殿町産ミニトマトの6次化商品開発



ニコニコ子ども館

ハンドベルコンサート



情報メディア論 福島民報社特別授業



町民健康調査

■ 大学施設の開放

東日本大震災以降、市内の公共施設が避難所等として使用できないことを受け、地域貢献の観点から、本学施設を学園休業日に外部団体の大会・イベント・検定試験会場等として幅広く大学施設の貸し出しを行っている。令和 5(2023)年度はコロナウィルス第 5 類に移行したことにより、貸出依頼が多くあった。

〈過去 3 年間の利用者数〉

	2021 年	2022 年	2023 年
利用者数	15,560 人	12,600 人	15,510 人



たなばたコンサート

■ 生涯学習講座

本学では、「学ぶことは生涯の仕業」の理念のもと、地域女性を対象として科目の開放を短期大学と共同で実施している。この生涯学習講座としての科目開放は、令和元（2019）年度で 35 年目となる。令和 2（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染防止の観点から講座の開催を見送っていたが、2023 年後期から再開した。

■ 国際交流特別講座

本学では 21 世紀の国際化に対応するため、英語・中国語・日本語、それぞれのことばを楽しく学ぶことを通して、ことばと文化への理解を深め、コミュニケーション能力を高め、あわせて本学園の国際性の発展を図ることを目的として、平成 14(2002) 年度前期より「国際交流特別講座」を開講している。令和 2（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染防止の観点から講座の開催を見送っていた。次年度再開予定である。

■ 地域連携推進室の設置

平成 28（2016）年度に、「産学官との連携強化」、「地域活性化」、「施設の一般開放」を推進する窓口として「地域連携推進室」を法人事務局 管財部内に設置して、地域への人的資源の提供や、教育成果を還元するための橋渡しを行っている。

■ 公開講座

令和 5(2023) 年度は新型コロナウイルスが第 5 類に移行したことで、生活科学科、食物栄養学科主催の市民フォーラムを対面で実施することができた。



市民フォーラム

■ 産学連携・受託事業

令和 5(2023) 年度の本大学・短大が関係した産学連携・受託事業は、①葛尾村産バナメイエビを利用した商品の開発 ②チャレンジふくしま県民運動 ③水未来基金水環境保全活動支援事業における裏磐梯湖沼地域の水環境と生物調査 ④阿武隈地域における「保存食」文化調査研究。⑤エゴマ入り納豆の開発。⑥福島県安心で安全な県づくり促進事業

VI. 次年度の取り組み

- （１）エコマインドを持った学生、生徒の育成（生物多様性への貢献）
- （２）地域貢献（環境に関するボランティア活動への参加、学園施設開放等）
- （３）環境負荷の低減（高校管理棟の LED 化）

VII. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

環境関連法規等の遵守状況の確認結果及び違反、訴訟等の有無

環境関連法規類			遵守評価 令和4年5月		評価
			監視及び測定	担当	○×
1	毒物及び劇物取締法		特定薬品関係管理状態	環境委員会	○
2	労働安全衛生法		産業医・安全・衛生管理者等	総務部	○
3	消防法		危険物管理・消防用設備	管財部	○
4	廃棄物処理法		一般廃棄物分別及び特別管理 廃棄物の処理状態など、増改築 工事時の産業廃棄物処理	管財部	○
5	資源有効利用促進法		パソコン・二次電池等	管財部	○
6	家電リサイクル法		廃棄時確実な引渡し	管財部	○
7	自動車リサイクル法		廃棄時確実な引渡し	管財部	○
8	建設リサイクル法		新築・増築・解体工事発生時 元請け業者との契約事項	管財部	○
9	PCB 処理特措法		郡山市届出・年 1 回確認	管財部	○
10	フロン排出抑制法		フロン回収手続の処理	管財部	○
11	大気汚染防止法、福島県生活 環境の保全等に関する条例		講堂冷却水発生機運転時の ばい煙量	管財部	○
12	水質汚濁防止法		構造等に関する基準遵守・薬品 類定期点検	管財部	○
13	下水道法		定期的な保守点検・清掃	管財部	○
14	水道法		年 1 回貯水槽清掃・点検	管財部	○
15	グリーン購入促進法		毎年 3 月頃確認	管財部	○
16	環境配慮契約法		毎年 3 月頃確認	管財部	○
17	環境保全活動・環境教育推進法		持続可能な社会・意欲の増進	管財部	○
18	食品衛生法		営業許可証の確認	管財部	○
19	省エネ法	エネルギー合理化・ 自主的	エコアクション 21:環境目標・ 環境活動計画進捗	環境委員会	○
		トップランナー方式	機器の買替時	管財部	○
20	環境基本法・循環型社会形成推 進基本法・温対法・ 文部科学省 からの通達		国の施策に協力、温室効果ガス の排出抑制	管財部	○
21	小型家電リサイクル法		使用済小型電子機器等の排出 状況を確認	管財部	○
22	麻薬及び向精神薬取締法		向精神薬の登録内容、保管管理 確認	管財部	○
23	核原料物質、原子炉の規制に関 する法律		核燃料物質（2 種類）の保管、 管理確認	管財部	○
24	PRTR 法		第 1 種、第 2 種、特定化学物質 の保管管理確認	管財部	○
25	放射性物質による環境汚染への 対処に関する法律		事故由来放射性物質による汚 染された廃棄物の保管確認	管財部	○
26	道路交通法		安全運転管理状況確認	総務部	○

環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局より違反の指摘は昭和24年の設立以来ありません。

VIII. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査

1. 監査対象	学校法人 郡山開成学園における環境活動	
2. 監査実施日	令和5年12月25日（月）	
3. 監査担当者	内部監査委員／紺野 信弘、水野 時子、学生代表 渡部部長（NLS 部）	
4. 監査目的	EA21 中間審査前 内部監査	
5. 監査項目	1. 前回の更新審査時の推奨事項の是正措置の改善状況確認 2. 内部監査チェックリストにより確認 3. 事務局より2023年環境活動計画書の各目標の達成状況と主たる環境活動の報告 4. 大学・短大・高校・幼稚園・家庭寮の各環境委員より2023年の環境活動についてプレゼンテーション 5. 質疑応答、講評	
6. 監査講評	監査委員氏名	講評結果
	紺野監査委員長	各部門が頑張って環境への取り組みを行っていることが分かった。幼稚園の園庭がカチコチでふわっとした土に代えるには、穴を掘って落ち葉を埋めてみてはいかがか？又、NLS部の学生と学友会との繋がりを深めてみてはいかがか？尚、街路樹が少ないとアスファルトの熱が高温になるので、街路樹の必要性が理解出来た。
	水野監査委員	各部門の一つ一つの取組が合さり、大きな取組となる。継続している取組や新たな取組を拝見出来、勉強となった。是非、環境への取組を継続して行ってほしい。
	渡部監査委員 （学生代表）	廃油、ごみゼロキャンペーン、各種イベントを通じてSDGsの取り組みを紹介して行き、今後環境に関して何が出来るのか、NLS部員と相談して取り組みを行いたい。
監査状況写真		

(2) 代表者による全体の取組状況及び見直しの結果

県内の自治体や地元企業と連携した特産品の開発や発信、子育て世代への支援など様々な場面での学生の挑戦が結実し、工夫が生かされている。学生には、建学の精神である「尊敬・責任・自由」を体現し、自立した社会人として成長して欲しい。そのためにも教育の質の向上に最優先で取り組み、地域社会に貢献できる人材育成の土台をより強固なものにしたい。

本学では、2023 年度「郡山まちづくりハーモニー賞」において、郡山女子大学短期大学部、郡山女子大学附属高等学校 特別進学クラス研究部がそれぞれ「青少年・学校部門」で表彰された。又、食物栄養学科が令和 5 年度 東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」奨励賞、郡山女子大学附属高等学校 特別進学クラス研究部が「SDGs Quest みらい甲子園南東北大会」特別賞を受賞し、本学が以前から行ってきた取り組み等が高く評価され、大変喜ばしい限りである。

今後とも地球温暖化防止につながる、環境負荷削減の努力は継続し、福島県が宣言した 2050 年迄にカーボンニュートラルの実現に向けて、産官学が連携し、持続可能な社会の構築に寄与していくこととする。

令和 6 年 7 月 25 日

学校法人 郡山開成学園 理事長

開 成 学 園

(3) 外部評価

2023 年度「郡山市まちづくりハーモニー賞」(青少年・学校部門)

郡山女子大学短期大学部



東日本大震災「復興の灯火プロジェクト」

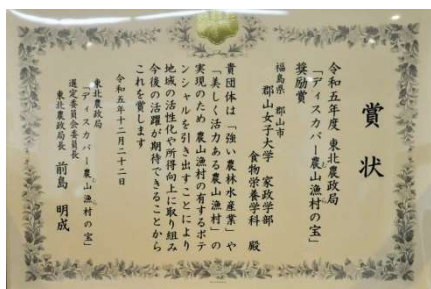
郡山女子大学附属高等学校 特別進学クラス 研究部



児童クラブでのプログラミング教室

令和 5 年度東北農政局

「ディスカバー農山漁村の宝」奨励賞



SDGs Quest みらい甲子園南東北大会

特別賞受賞





地球は、わたしたち現代世代の人間だけのものではなく、
わたしたちの子どもや孫の世代を含む未来のすべての世代
の生存に対して責任があるということを認識しましょう。

（世代間公平の考え方より）

発行日 / 2024 年 7 月 25 日

